



# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2021/05/21 改訂日: 2025/03/10 バージョン: 3.0

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: ALLROUND - All purpose cleaner
製品コード	: 115555743
製品グループ	: 取引製品

### 会社情報

#### 製造業者

Brands Alliance s.r.o.

831 06

BratislavaPri Šajbách 1

T +421244871700

[msds@brandsalliance.eu](mailto:msds@brandsalliance.eu) - [www.brandsalliance.eu](http://www.brandsalliance.eu)

## 2. 危険有害性の要約

### GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性化学品	区分 1
	鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入 : 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入 : 蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入 : 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分 1A
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	分類できない

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

環境に対する有害性	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	分類できない
	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期 (急性)	区分 3
	水生環境有害性 長期 (慢性)	区分 3

オゾン層への有害性 分類できない

## ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP)

- 危険
- 金属腐食のおそれ (H290)
- 発がんのおそれ (H350)
- 長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)

注意書き (GHS JP)

安全対策

- 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)
- 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
- 他の容器に移し替えないこと。(P234)
- 環境への放出を避けること。(P273)
- 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置

- ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)
- 物的被害を防止するためにも流出したものを吸収すること。(P390)

保管

廃棄

- 施錠して保管すること。(P405)
- 内容物／容器を地方、地域、国内の法令や国際的法令に順守した危険廃棄物又は特別廃棄物の収集場所廃棄すること。(P501)

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

：混合物

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
ラウレス-6 カルボン酸ナトリウム	0.5955	C <sub>2</sub> H <sub>3</sub> NaO <sub>2</sub> (OC <sub>2</sub> H <sub>4</sub> ) <sub>n</sub> C <sub>12</sub> H <sub>25</sub> O	-	-	33939-64-9
アルコール、C9-11、エトキシリ化	0.688	-	-	-	68439-46-3
コカミドプロピルベタイン	0.441	C <sub>x</sub> H <sub>y</sub> O <sub>z</sub> . N	-	-	61789-40-0
2-(2-ブトキシエトキシ)エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル	0.54	C <sub>8</sub> H <sub>18</sub> O <sub>3</sub>	(2)-422,(7)-97	2-(8)-99,2-(8)-317	112-34-5
エタノール; エチルアルコール	0.16146	C <sub>2</sub> H <sub>6</sub> O	(2)-202	既存化学物質	64-17-5
イソプロピルアルコール臭	0.01854	C <sub>3</sub> H <sub>8</sub> O	(2)-207	2-(8)-319	67-63-0

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
ラウラミンオキシド	0.123	C14H31NO	(2)-198	既存化学物質	1643-20-5
エチルヘキシリ硫酸ナトリウム	0.1081	C8H18O4S.Na	(2)-1679,(2)-2840	既存化学物質	126-92-1
ラウレス硫酸ナトリウム	0.72105	-	-	-	68891-38-3

## 4. 応急措置

### 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
皮膚に付着した場合 : 皮膚は多量の水で洗浄する。  
眼に入った場合 : 予防措置として眼を水ですすぐ。  
飲み込んだ場合 : 気分が悪いときは医師に連絡すること。

### 医師に対する特別な注意事項

- その他の医学的アドバイスまたは治療 : 対症的に治療すること。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素  
使ってはならない消火剤 : データなし  
火災時の危険有害性分解生成物 : 有毒な煙を放出する可能性がある。  
消火時の保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。  
自給式呼吸器。  
完全防護服。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

#### 非緊急対応者

- 応急処置 : 漏出エリアを換気する。

#### 緊急対応者

- 保護具 : 適切な保護具を着用して作業する。  
詳細については、第 8 項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。

#### 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法 : 漏出物を回収すること。  
浄化方法 : 吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。  
その他の情報 : 物質または固形残留物は公認施設で廃棄する。

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

技術的対策

: データなし

安全取扱注意事項

: 作業所の十分な換気を確保する。  
個人用保護具を着用する。

接触回避

: データなし

衛生対策

: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
製品取扱い後には必ず手を洗う。

### 保管

安全な保管条件

: 換気の良い場所で保管すること。  
涼しいところに置くこと。

安全な容器包装材料

: データなし

## 8. ばく露防止及び保護措置

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	イソプロピルアルコール # Isopropyl alcohol
許容濃度 上限	980 mg/m <sup>3</sup>
	400 ppm
規則参照	許容濃度等の勧告（2021 年度）産衛誌 63 卷

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。

### 保護具

呼吸用保護具

: 換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する。

手の保護具

: 保護用手袋

タイプ	素材	透過	厚さ (mm)	浸透	規格
使い捨て式手袋	ニトリルゴム (NBR) クロロブレンゴム (CR)		0,4 - 0,7		EN 374-2 EN ISO 374

眼の保護具 : 安全メガネ

皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する。

環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

その他の情報 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
スプレーミストを吸入しないこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態

: 液体

外観

: 液体

色

: 薄灰色

臭い

: データなし

pH

: 8 – 8.5

融点

: データなし

凝固点

: < -20 °C

沸点

: データなし

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: データなし
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: 水に可溶。
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません（第7項参照）。
混触危険物質	: 酸化剤。
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

## 11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 分類できない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 区分に該当しない(分類対象外) (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)

アルコール、C9-11、エトキシリ化 (68439-46-3)	
LD50 経口 ラット	1378 mg/kg 出典: Thomson Micromedex の企業ソリューション
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg bw/day 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
LD50 経皮 ウサギ	2000 nl/kg 出典: Thomson Micromedex の企業ソリューション
LC50 吸入 - ラット	> 1.6 mg/l air 動物 : ラット、ガイドライン : OECD ガイドライン 403 (急性吸入毒性)

コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、約 1,530 mg/kg、2,370 mg/kg の 2 件の報告 (SIDS (2012) ) があり、区分 4 と区分外とに該当するが、LD50 値の最小値が該当する区分 4 とした。
急性毒性 (経皮)	データ不足のため分類できない。なお、31%水溶液の LD50 値は > 2,000 mg/kg (有効成分換算値として > 600 mg/kg) の報告がある (SIDS (2012) )。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における固体である。

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
急性毒性 (吸入:蒸気)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経口	1530 mg/kg
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性経皮毒性)
2-(2-ブトキシエトキシ)エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、5,660 mg/kg (ACGIH (7th, 2013)、DFGOT vol. 7 (1996))、5,080 mg/kg (雌)、6,530 mg/kg (雄)、6,560 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、9,600 mg/kg (給餌)、7,300 mg/kg (絶食) (ACGIH (7th, 2013))、9,623 mg/kg (給餌)、7,292 mg/kg (絶食) (PATTY (6th, 2012)、EU-RAR (1999)、ECETOC TR 64 (1995))との報告に基づき、区分外とした。
急性毒性 (経皮)	ラットの LD50 値として、> 2,000 mg/kg (DFGOT vol. 7 (1996))、ウサギの LD50 値として、2,764 mg/kg (PATTY (6th, 2012)、EU-RAR (1999)、ECETOC TR 64 (1995))、3,000-4,000 mg/kg (DFGOT vol. 7 (1996))、4,000 mg/kg (PATTY (6th, 2012))との報告に基づき、区分外 (国連分類基準の区分 5)とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。ラットに飽和蒸気 (28.8 ppm) を 7 時間ばく露した結果 (4 時間換算値 : 38.1 ppm)、死亡例なしとの報告 (EU-RAR (1999)、ECETOC TR 64 (1995)) があるが、このデータのみでは分類できない。
LD50 経口 ラット	5660 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	2764 mg/kg BW 動物 : ウサギ、動物の性別 : 男性、ガイドライン : OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)、95%CL : 2090-3645
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値 = 6,200 mg/kg、11,500 mg/kg、17,800 mg/kg、13,700 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、15,010 mg/kg、7,000-11,000 mg/kg (SIDS (2005)) はすべて区分外に該当している。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LDLo = 20,000 mg/kg (SIDS (2005)) に基づき区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50 = 63,000 ppmV (DFGOT vol. 12 (1999))、66,280 ppmV (124.7 mg/L) (SIDS (2005)) のいずれも区分外に該当する。なお、被験物質の濃度は飽和蒸気圧濃度、78,026 ppmV (147.1 mg/L) の 90% [70,223 ppmV (132.4 mg/L)] より低い値であることから、ppmV を単位とする基準値を用いた。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
LD50 経口 ラット	15010 mg/kg BW 動物：ラット、動物の性別：女性、ガイドライン：OECD ガイドライン 401（急性経口毒性）、95%CL：14450-15560
LD50 経口	8300 mg/kg BW 動物：マウス
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50=4,384 mg/kg (EPA Pesticides (1995) )、4,396 mg/kg (EHC 103 (1990) )、4,710 mg/kg (EHC 103 (1990) 、PATTY (6th, 2012) 、SIDS (2002) )、5,000 mg/kg (環境省リスク評価第6巻 (2006) )、5,045 mg/kg (環境省リスク評価第6巻 (2006) )、5,280 mg/kg (EHC 103 (1990) 、SIDS (2002) )、5,300 mg/kg (PATTY (6th, 2012) )、5,480 mg/kg (EHC 103 (1990) 、PATTY (6th, 2012) )、5,500 mg/kg (EHC 103 (1990) 、SIDS (2002) )、5,840 mg/kg (PATTY (6th, 2012) 、SIDS (2002) )に基づき、区分外とした。今回の調査で入手した EPA Pesticides (1995) 、PATTY (6th, 2012) 、環境省リスク初期評価第6巻 (2006) の情報を追加し、JIS 分類基準に従い、区分5から区分外に変更した。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50=12,870 mg/kg (EHC 103 (1990) , (PATTY (6th, 2012) , (SIDS (2002) )に基づき、区分外とした。なお、文献の優先度変更により、今回の調査で入手した PATTY (6th, 2012) のデータを根拠データとした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50 (4時間) = 68.5 mg/L (27,908 ppmV) (EPA Pesticides (1995) )、72.6 mg/L (29,512 ppmV) (EHC 103 (1990) , SIDS (2002) )に基づき、区分外とした。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度 (53,762 ppmV (25°C) ) の 90%より低いため、分類にはミストを含まないものとして ppmV を単位とする基準値を適用した。なお、今回の調査で入手した EPA Pesticides (1995) のデータを根拠とした。今回の調査で得たより信頼性の高い情報源から分類した。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	5840 mg/l 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 401（急性経口毒性）
LD50 経口	4384 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	16400 mg/kg 出典：ECHA
LD50 経皮	4000 mg/kg
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、1,267 mg/kg (NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第5巻：暫定的有害性評価シート (2006)) との報告に基づき、区分4とした。優先度の高い情報に基づき、区分を見直した。
急性毒性 (経皮)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	GHS の定義における固体である。

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。なお、本物質を 0.3%含むヘアスプレー (水: 85~95%、PVP/VA 共重合体: 1~5%、コカミド DEA: 0~2%、ポリクオタニウム-11: 0~2%、その他: < 1%) のミストをラットに吸入ばく露させた際の LC50 値 (4 時間) が 5.3 mg/L (本物質換算値: 0.016 mg/L) との報告 (SIDS (2007)) があるが、このデータのみでは区分を特定できない。なお、試験は当該ヘアスプレーをエアロゾルで供給したとの記載に基づき、ミストの基準値を適用した。
LD50 経口	1267 mg/kg
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)、ガイドライン: EU メソッド B.3 (急性毒性 (皮膚))
エチルヘキシリ硫酸ナトリウム (126-92-1)	
LD50 経皮 ウサギ	6540 mg/kg 出典: NLM
ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
LD50 経口 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経皮 ラット	≥ 2000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性経皮毒性)
皮膚腐食性／刺激性	: 区分に該当しない
ALLROUND - All purpose cleaner	
pH	8 – 8.5
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギの OECD TG 404 に準拠した皮膚腐食性試験が多数報告されており、いずれも軽度の刺激性であることから (SIDS (2012)) 区分外とした。
2-(2-ブトキシエトキシ)エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
皮膚腐食性／刺激性	本物質 (未希釀) をウサギ又はモルモットに適用した結果、軽度の刺激性がみられたとの報告 (PATTY (6th, 2012)) や、ウサギの皮膚に長期間または反復適用した結果軽度の刺激性がみられたとの記載 (ECETOC TR64 (2005)、BUA 204 (1997)) がある。なお、EU-RAR (1999) は、ウサギ又はラットを用いた経皮への反復投与 (2000mg/kg) で影響がみられなかったことから皮膚刺激性の区分はつかないと判断している (EU-RAR (1999))。詳細は不明であるがヒトに対する原液のパッチテストの結果、何人かに紅斑がみられたとの報告がある (DFGOT vol. 7 (1996))。以上の結果から、区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギに 4 時間ばく露した試験 (OECD TG 404) において、適用 1 および 24 時間後の紅斑の平均スコアが 1.0、その他の時点では紅斑及び浮腫の平均スコアは全て 0.0 であり、「刺激性なし」の評価 SIDS (2005) に基づき、区分外とした。

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
皮膚腐食性／刺激性	EHC 103 (1990)、PATTY (6th, 2012)、ECETOC TR66 (1995) のウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし又は軽度の刺激性の報告があるが、EHC 103 (1990) のヒトでのボランティア及びアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さないとの報告から、軽微ないし軽度の刺激性があると考えられ、JIS 分類基準の区分外（国連分類基準の区分 3）とした。
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
皮膚腐食性／刺激性	データ不足のため分類できない。なお、ウサギを用いた皮膚刺激性試験において、本物質を 24 時間適用した結果、強度の刺激性がみられたとの報告がある (SIDS (2007)、NITE 初期リスク評価書 (2007)、HSDB (Access on October 2015)) が 24 時間適用の試験であることから分類には用いなかった。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 分類できない
ALLROUND - All purpose cleaner	
pH	8 – 8.5
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた眼刺激性/腐食性試験 (OECD TG 405 準拠) が多数報告されており、いずれも中程度の刺激性と評価されているが、虹彩と結膜への影響が 21 日内に回復しなかった (SIDS (2012) ) との記載があることから区分 1 とした。
2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギの眼に本物質 0.1 mL を適用した結果、中等度の眼刺激性が認められたが 14 日以内に回復した (ECETOC TR 64 (1995)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6th, 2012)) との報告がある。なお、本物質は、EU CLP 分類において「Eye. Irrit. 2 H319」に分類されている (ECHA CL Inventory (Access on June 2015))。中等度の刺激性との記載、及び回復性の記載からガイドラインに従い区分 2A とした。
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた 2 つの Draize 試験 (OECD TG 405) において、中等度の刺激性と評価されている (SIDS (2005) )。このうち、1 つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第 1 日の平均スコアが角膜混濁で 1 以上、結膜発赤で 2 以上であり、かつほとんどの所見が 7 日以内に回復した (ECETOC TR 48 (2) (1998) ) ことから、区分 2B に分類した。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	EHC (1990)、SIDS (2002)、PATTY (6th, 2012)、ECETOC TR48 (1998) のウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから、区分 2 とした。

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験において、本物質の 1%溶液を適用した結果、強度の刺激性がみられたとの報告がある (NITE 初期リスク評価書 (2007))。また、ウサギを用いた別の眼刺激性試験においては、本物質 (30%) 適用による軽度の刺激性の報告 (SIDS (2007)) や、本物質 (0.3%) 適用により刺激性はみられなかった (SIDS (2007)) との報告がある。SIDS (2007) は、本物質を含む酸化アミン化合物について、低濃度では刺激性は示さないが、30%程度の濃度では重度の刺激性を示すと報告している (SIDS (2007))。以上、強度の刺激性がみられたとする報告から区分 2A とした。
呼吸器感作性	: 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。なお、アルコールによる気管支喘息症状の誘発は血中アルデヒド濃度の増加と関係があると考えられている。一方、軽度の喘息患者 2 人がエタノールの吸入誘発試験で重度の気管支収縮を起こしたことが報告されている (DFGOT vol.12 vol.12 (1999)) が、その反応がアレルギー由来であることを示すものではないとも述べられている (DFGOT vol.12 vol.12 (1999))。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	: 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
皮膚感作性	SIDS (2012) には、モルモットを用いた皮膚感作性試験（マキシマイゼーション試験、ドレイズ法による試験等）の結果が 4 試験あり、3 試験では陰性の結果が出ている。1 試験のみ 20 匹中 4 匹に陽性がみられており、SIDS (2012) では不純物に起因することを指摘している。また、ヒトに対する本物質の感作性は低いとの記載がある。以上の結果に基づき、区分外とした。
2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。なお、モルモットを用いた Maximization test において感作性はみられなかった (ECETOC TR. 64 (1995)、BUA 204 (1997)) との報告や、感作性がないとの試験報告 (EU-RAR (1999)) があるが、結果の詳細等不明であるため分類に用いるには不十分なデータと判断した。情報を精査し区分を変更した。

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
皮膚感作性	ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告がある (DFGOT vol.12 vol.12 (1999) )との記述があるが、「ヒトでは他の一級または二級アルコールとの交叉反応性がみられる場合があること、動物試験で有意の皮膚感作性はみられないことにより、エタノールに皮膚感作性ありとする十分なデータがない」 (SIDS (2005) 、 DFGOT vol.12 vol.12 (1999) ) の記述に基づきデータ不足のため分類できないとした。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
皮膚感作性	モルモットを用いたマキシマイゼーション試験において、感作性はみられなかったとの報告や (NITE 初期リスク評価書 (2007))、ヒト (84 人、 101 人、 141 人) のパッチテストの報告で感作性は認められなかったとの報告が複数ある (SIDS (2007) 、 NITE 初期リスク評価書 (2007))。 SIDS (2007) では本物質は感作性を示さないと結論している (SIDS (2007))。以上より、区分外とした。
生殖細胞変異原性	: 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。すなわち、 in vivo データはなく、 in vitro では細菌の復帰突然変異試験で陰性である (IUCLID (2000) ) 。
2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
生殖細胞変異原性	ガイドラインの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、 in vivo では、マウス骨髄細胞の小核試験で陰性 (DFGOT vol. 7 (1996) 、 EU-RAR (1999) 、 ACGIH (7th, 2013) 、 PATTY (6th, 2012) ) 、 in vitro では、マウスリンフォーマ試験で弱陽性の結果はあるが、それ以外の試験、すなわち、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、遺伝子突然変異試験、不定期 DNA 合成試験で陰性である (ACGIH (7th, 2013) 、 DFGOT vol. 7 (1996) 、 EU-RAR (1999) 、 PATTY (6th, 2012) ) 。

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

## エタノール; エチルアルコール (64-17-5)

生殖細胞変異原性

in vivo、in vitro の陰性結果あるいは陰性評価がされており、分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できないため、「分類できない」とした。すなわち、マウスおよびラットを用いた経口投与（マウスの場合はさらに腹腔内投与）による優性致死試験において陽性結果（SIDS (2005)、IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999)、PATTY (6th, 2012)）があるものの、試験条件の不十分性や試験結果の誤りなどが認められ信頼性は低い又は信頼性なしと評価している（SIDS (2005)、DFGOT vol.12 (1999)）。また、ラット、マウスの骨髓小核試験で陰性、ラット骨髓及び末梢血リンパ球の染色体異常試験で陰性（SIDS (2005)、PATTY (6th, 2012)、IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999)）、チャイニーズハムスターの骨髓染色体異常試験で陰性（SIDS (2005)）である。また、マウス精子細胞の小核試験、精母細胞の染色体異常試験、ラット精原細胞の染色体異常試験、チャイニーズハムスター精原細胞の染色体異常試験（異数性）で陰性である（IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999)）。なお、陽性の報告として、ラット、マウスの姉妹染色分体交換試験がある（DFGOT vol.12 (1999)、PATTY (6th, 2012)）が、SIDS (2005) などでは評価されていない。in vitro 変異原性試験として、エームス試験、哺乳類培養細胞を用いるマウスリンフォーマ試験及び小核試験はすべて陰性と評価されており（PATTY (6th, 2012)、IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999)、SIDS (2005)、NTP DB (Access on June 2013)）、in vitro 染色体異常試験でも CHO 細胞を用いた試験 1 件の陽性結果を除き他はすべて陰性であった（SIDS (2005)、PATTY (6th, 2012)、IARC (2010)）。なお、この染色体異常の陽性結果は著しく高い用量で生じており、高浸透圧のような非特異的影響に起因した染色体傷害の可能性があると記載（SIDS (2005)）されている。

## イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)

生殖細胞変異原性

データ不足のため分類できない。すなわち、in vivo では、体細胞変異原性試験であるマウスの骨髓細胞を用いる小核試験（SIDS (2002)）、ラットの骨髓細胞を用いる染色体異常試験（EHC 103 (1990)）で陰性の結果が報告されている。in vitro では、染色体異常試験のデータはなく、細菌を用いる復帰突然変異試験（SIDS (2002)、EHC 103 (1990)）、哺乳類培養細胞を用いる hgprt 遺伝子突然変異試験（SIDS (2002)）で陰性である。なお、IARC 71 (1999)、環境省リスク評価第 6 卷 (2008) では変異原性なしと記載している。分類ガイダンスの改訂により区分を変更した。

## ラウラミンオキシド (1643-20-5)

生殖細胞変異原性

In vivo では、マウスの優性致死試験で陰性、in vitro では、細菌の復帰突然変異試験で陰性である（SIDS (2007)、NITE 初期リスク評価書 (2007)）。したがって、ガイダンスに従い分類できないとした。

発がん性

: 発がんのおそれ

## コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)

発がん性

データ不足のため分類できない。

## 2- (2-ブトキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)

発がん性

国際機関による分類もされておらず、データ不足のため分類できない。

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
発がん性	エタノールは ACGIH で A3 に分類されている (ACGIH (7th, 2012) )。また、IARC (2010) では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされているため、区分 1A に分類する。
IARC グループ	ヒトに対して発がん性がある
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
発がん性	IARC 71 (1999) でグループ 3、ACGIH (7th, 2001) で A4 に分類されていることから、分類できないとした。分類ガイドラインの改訂により区分を変更した。
IARC グループ	分類できない
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
発がん性	雌雄ラットに本物質を 1,000 ppm で 93 週間経口 (飲水) 投与した発がん性試験において、本物質 1,000 ppm 単独投与群に加えて、本物質 1,000 ppm と亜硝酸ナトリウム 2,000 ppm の併用投与群を設け、発がん性の有無を比較した。その結果、単独投与群では無処置対照群と比べて腫瘍発生頻度増加の証拠は示されなかったのに対し、本物質と亜硝酸ナトリウム併用群では亜硝酸ナトリウム単独投与群と比べて、肝臓腫瘍 (肝細胞腺腫) の頻度増加がみられた (SIDS (2007)、NITE 初期リスク評価書 (2007))。この他、アルキルジメチル N-アミノキシド (AO) の市販品である 27% 水溶液製品で、95%以上が C10～C16 の直鎖アルキルアミノオキシドであり、主成分が C12 である被験物質 (C10～C16AO (CAS 番号: 70592-80-2)) を用いたラット 2 年間混餌投与試験、及びマウス 2 年間経皮適用試験の報告があり、高用量群において混餌投与では体重増加抑制、経皮適用試験では皮膚刺激による皮膚の肥厚がみられる用量まで投与されたが、いずれも発がん性の証拠は示されなかった (SIDS (2007)、NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第 5 卷：暫定的有害性評価シート (2006)) との記述もある。以上、本物質のラット経口経路 (飲水)、及び本物質を含む市販品水溶液ではラット経口経路、及びマウス経皮経路で発がん性の証拠はないが、ラット飲水投与で本物質と亜硝酸塩を併用投与した結果、肝臓に肝細胞腺腫の頻度増加が認められた。ただ、亜硝酸塩を併用投与した結果から本物質の発がん性の評価は困難で、単独投与の結果からは本物質自体の発がん性の可能性は低いと考えられる。しかしながら、一定純度の本物質を投与した試験報告はラット飲水投与 (1,000 ppm) の試験報告のみであり、用量反応関係、動物種間差等の情報が欠落しており、データ不足で分類できない。
生殖毒性	: 分類できない

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

## コカミ ドプロピルベタイン (61789-40-0)

生殖毒性	ラットを用いた経口経路（強制）での発生毒性試験（OECD TG414）において、母動物毒性（死亡（1/21例が妊娠 15 日に死亡）、異常な体位（13/21）、立毛（2/21）、運動量の減少、体重減少（対照群の最大 17%減）、胃の潰瘍（2/21）、粘膜の肥厚（20/21））が 3,300 mg/kg/day（活性成分 950 mg/kg/day 相当）でみられ、この用量で吸收胚の増加、生存胎児の減少、胎児体重の減少がみられた。なお、この下の用量である 990 mg/kg/day（活性成分 286 mg/kg/day 相当）では母動物毒性はみられるが児の発生に影響はみられていない（SIDS (2012)）。以上のように母動物に影響がみられる用量においてのみ胎児に影響がみられたことから区分 2 とした。なお、生殖能に関するデータは得られていない。
NOAEL(動物/メス、F0/P)	300 mg/kg BW 動物: ネズミ、動物の性別: メス、ガイドライン: その他:
NOAEL(動物/メス、F1)	1000 mg/kg BW 動物: ネズミ、動物の性別: メス、ガイドライン: その他:
<b>2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)</b>	
生殖毒性	ヒトの生殖影響に関する情報はない。実験動物では、本物質をラットの雌雄いずれかに交配前から強制経口投与し、非ばく露のペアーと交配させた 1 世代試験において、1,000 mg/kg/dayまでの用量で、雌雄親動物の繁殖能への有害影響はみられなかつたが、1,000 mg/kg/day の F1 出生児に哺育期後期の体重増加抑制がみられた (EU-RAR (1999))。また、ラットに交配前 13 週間、及び雌は妊娠 20 日まで、2,000 mg/kg/day を経皮適用した 1 世代試験でも雌雄ともに繁殖能への有害影響は認められなかつた (EU-RAR (1999)、ACGIH (7th, 2013))。一方、発生毒性影響としては、妊娠雌ラットの器官形成期 (妊娠 6-15 日) に強制経口投与した発生毒性試験において、母動物の 25%が死亡する高用量 (2,050 mg/kg/day) まで投与しても、新生児の出生数、生後 3 日までの生存率、体重推移に影響はみられなかつた (催奇形性の有無は評価対象外)との記述、並びに妊娠雌ラットの全妊娠期間を通して混餌投与した催奇形性試験では、母動物に体重増加抑制がみられる用量でも、出生前後の発生影響はみられなかつたとの記述がある (EU-RAR (1999)、ACGIH (7th, 2013))。また、妊娠ウサギの器官形成期 (妊娠 8-19 日) に閉塞経皮適用した催奇形性試験において、母動物に統計的に有意ではないが体重増加抑制の傾向がみられ、皮膚刺激性が観察される用量まで投与したが、胎児には奇形も含めて発生毒性はみられなかつたとの記述がある (EU-RAR (1999)、ACGIH (7th, 2013))。以上、実験動物では経口及び経皮の 2 経路で、親動物の繁殖能への有害影響、及び奇形を含む発生毒性影響は概ね生じないと考えられるが、経口経路のラット 1 世代試験では高用量群の出生児に哺育期間中の成長抑制を示唆する結果も得られており、「区分外」とするにはヒトの知見も含めてデータが不十分と判断された。よって、本項は「分類できない」とした。
NOAEL(動物/オス、F0/P)	> 452 mg/kg BW 動物: ネズミ、動物の性別: オス、ガイドライン: その他:
NOAEL(動物/メス、F0/P)	> 470 mg/kg BW 動物: ネズミ、動物の性別: メス、ガイドライン: その他:

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

## エタノール; エチルアルコール (64-17-5)

生殖毒性

ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動及び認知機能障害が含まれる (PATTY (6th, 2012) )。これらはヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるため、区分 1A とした。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠期に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。また、動物実験でも妊娠ラットに経口投与した試験で奇形の発生がみられている。

## イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)

生殖毒性

ラットの経口投与による 2 世代試験では生殖発生毒性は認められなかったとの記述がある (IARC 71 (1999)、EHC 103 (1990) ) が、このデータの詳細は明らかではない。比較的新しいラットの経口投与による 2 世代試験では親動物に一般毒性影響（肝臓及び腎臓の組織変化を伴う重量増加）が認められる用量で、雄親動物に交尾率の低下、児動物には生後に体重の低値及び死亡率の増加が見られたと記述されている (PATTY (6th, 2012) )、SIDS (2002) )。雄親動物における交尾率の低下と新生児への有害影響は、親動物への一般毒性による二次的・非特異的な影響とは考えがたい。また、妊娠雌ラットに吸入暴露した発生毒性試験において、胎児には軽微な影響（体重低値、骨格変異）が見られたのみで、奇形の発生はなかったが、母動物毒性（不安定歩行、嗜眠、摂餌量及び体重増加量減少）がみられる用量で着床不全、全胚吸収など生殖毒性影響がみられている (PATTY (6th, 2012) )。以上の結果、分類ガイダンスに従い区分 2 に分類した。

## ラウラミンオキシド (1643-20-5)

生殖毒性

本物質をラットに経口 (混餌) 投与した 2 世代生殖毒性試験において、F0 親動物に投与開始後 6.5 週間後に体重低下のために、用量を下げて F0、F1 世代の親動物に 11~40 mg/kg/day 相当量を投与して F2 児動物の離乳まで試験を継続した結果、親動物には体重増加抑制がみられたが、生殖能に悪影響はなく、F1、F2 児動物には低用量群から哺育期の体重低値推移がみられただけであった (SIDS (2007))。発生毒性試験としては、本物質を妊娠ラットに最大 200 mg/kg/day で妊娠 7~17 日に強制経口投与し、2/3 の動物は妊娠 20 日に帝王切開し胎児を観察し、残りは自然分娩させ、育成後 10 週齢で F1 同士を交配させ妊娠 20 日に屠殺した試験において、F0 母動物には 200 mg/kg/day で体重増加抑制 (軽度、< 10%)、摂水量の減少が、F1 母動物には 200 mg/kg/day で胎盤重量の減少がみられ、胎児 (F1) には 200 mg/kg/day で胎児重量の低下及び骨化遅延がみられた (SIDS (2007))。同様に妊娠ウサギに本物質を 40~160 mg/kg/day で妊娠 6~18 日に強制経口投与した試験では、母動物には 40 mg/kg/day 以上で体重増加抑制、摂餌量及び摂水量の減少がみられ、80 及び 160 mg/kg/day では各 3 例が死亡又は瀕死のため安樂死せしめたが、生存例の胎児には異常はみられていない (SIDS (2007))。以上、本物質の経口経路での生殖発生毒性試験では、親動物の生殖能には有害影響はなく、胎児又は児動物の発生影響は母動物毒性発現量で最小限の影響しか示されておらず、分類可能な毒性情報は得られないが、区分外とするには情報不足と判断された。よって、本項はデータ不足のため分類できないとした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: 分類できない

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ラットの経口投与試験において、ガイダンスの範囲外の用量 (5-10 g/kg) で回復性の自発運動低下、運動協調性欠如、姿勢異常、立毛がみられた (SIDS (2012)) ため区分 3 (麻醉作用) とした。
2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトに関する情報はない。実験動物では、ウサギへの区分 2 相当の 2,000 mg/kg 経口投与で死亡が発生し、1,060 mg/kg で腹臥位、一過性の無緊張、脱力状態、呼吸促進、麻酔症状、腎臓傷害がみられた (DFGOT vol. 7 (1996))。また、「本物質は経口及び経皮経路で急性毒性は弱い。」との情報、「マウス、ラットの経口投与で、死亡前の毒性徴候は活動低下、努力呼吸、食欲低下、衰弱、振戦」であるが、その用量は区分 2 を超えること、「ウサギの経皮ばく露で、食欲低下、腎臓肥大、腎孟の褪色、胸腺における浮腫や出血性傷害」がみられたが、その用量は区分 2 を超える (以上、EU-RAR (1999))。以上より、ウサギの経皮ばく露で腎臓への影響が考えられるが、区分 2 を超える用量範囲のため、腎臓を区分対象としなかった。その他の所見は、麻酔作用によるものであるため、区分 3(麻酔作用) とした。情報を確認し、旧分類の区分を見直した。
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトの吸入ばく露により眼及び鼻への刺激症状が報告されている (PATTY (6th, 2012))。血中エタノール濃度の上昇に伴い、軽度の中毒 (筋協調運動低下、気分、性格、行動の変化から中等度の中毒 (視覚障害、感覚麻痺、反応時間遅延、言語障害)、さらに重度の中毒症状 (嘔吐、嗜眠、低体温、低血糖、呼吸抑制など) を生じる。さらに、呼吸または循環不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている (PATTY (6th, 2012))。ヒトに加えて実験動物でも中枢神経系の抑制症状がみられている (SIDS (2005))。以上より、区分 3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	SIDS (2002)、EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第 6 卷 (2005) の記述から、本物質はヒトで急性中毒として中枢神経抑制 (嗜眠、昏睡、呼吸抑制など)、消化管への刺激性 (吐き気、嘔吐)、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。また、吸入ばく露により鼻、喉への刺激性 (咳、咽頭痛) を示す (EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第 6 卷 (2005)) ことから、気道刺激性を有する。以上より、区分 1 (中枢神経系、全身毒性)、及び区分 3 (気道刺激性) に分類した。なお、旧分類では区分 1 (腎臓) を採用したが、根拠となるデータは List 3 の情報源からのヒトの症例報告によるもので、原著は古く、List 1 及び 2 の複数の情報源では採用されておらず、標的臓器としての腎臓は不適切と判断し削除した。
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 分類できない

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

アルコール、C9-11、エトキシリ化 (68439-46-3)	
NOAEL (経口、ラット、90 日)	≥ 500 mg/kg BW 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 408 (げっ歯類における反復投与 90 日経口毒性)
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットに 90 日間強制経口投与した試験において、区分 2 のガイダンス値範囲を上回る用量 (150 mg/kg/day) で、前胃の組織変化 (雌雄) が、また最高用量 (300 mg/kg/day) で、尿潜血陽性例の頻度増加 (雄) がみられたのみである (SIDS (2012))。よって、経口経路では区分外相当であるが、他の経路での毒性情報がなく、データ不足のため分類できないとした。
2-(2-ブキシエトキシ)エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトに関する情報はない。実験動物では、ラットを用いた 5 週間吸入毒性試験において、117 mg/m <sup>3</sup> (ガイダンス値換算 : 0.0325 mg/L) で肝臓の相対重量増加、肝細胞脂肪変性がみられている (EU-RAR (2000))。また、ラットを用いた 2 週間吸入毒性試験において、100 mg/m <sup>3</sup> (ガイダンス値換算 : 0.011 mg/L) で血管周囲及び気管支周囲の顆粒球白血球の細胞浸潤、細気管文化、肺重量増加がみられている (EU-RAR (2000))。これらはいずれも区分 1 の範囲でみられた。なお、血液系 (赤血球) への影響として溶血がみられたが区分 2 の範囲を超える用量であった。ラットを用いた 6 週間強制経口投与毒性試験において、溶血性貧血、肝臓重量増加、前胃の角化亢進・棘細胞増生がみられ (EU-RAR (2000)、PATTY (6th, 2012)、DFGOT vol. 7 (1996))、13 週間飲水投与毒性試験において溶血性貧血、肝臓重量増加がみられた (PATTY (6th, 2012))。これらは区分 2 の範囲を超える用量であった。ラットを用いた 13 週間経皮投与毒性試験において、全身影響はみられていない (EU-RAR (2000)、PATTY (6th, 2012))。したがって、区分 1 (呼吸器、肝臓) とした。旧分類では吸入経路での毒性影響が明確でないことから分類できないとなっていた。しかし、得られた吸入経路の情報から分類が可能であった。
NOAEL (経口、ラット、90 日)	250 mg/kg BW
NOAEL (経皮、ラット/ウサギ、90 日)	< 200 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: その他:、ガイドライン: OECD ガイドライン 411 (亜慢性経皮毒性: 90 日間試験)
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する (DFGOT vol.12 (1999)) との記載に基づき区分 1 (肝臓) とした。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国 FDA は 3 種類の治療薬を承認しているとの記述がある (HSDB (Access on June 2013)) ことから、区分 2 (中枢神経系) とした。なお、動物実験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットの 90 日間反復経口投与試験において、ガイダンス値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている (SIDS (2005)、PATTY (6th, 2012))。
NOAEL (亜慢性、経口、動物/オス、90 日)	< 9700 mg/kg BW 動物 : マウス、動物の性別 : 男性、ガイドライン : EPA OPPTS 870.3100 (げっ歯類における 90 日間の経口毒性)

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
NOAEL (亜慢性、経口、動物/メス、90 日)	> 9400 mg/kg BW 動物：マウス、動物の性別：雌、ガイドライン：EPA OPPTS 870.3100 (げっ歯類における 90 日間の経口毒性)
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットに本物質の蒸気を 4 ヶ月間吸入ばく露試験で、100 mg/m <sup>3</sup> (ガイダンス値換算濃度: 0.067 mg/L/6 hr) 以上で白血球数の減少が見られ、500 mg/m <sup>3</sup> (ガイダンス値換算濃度: 0.33 mg/L/6 hr) 群では呼吸器 (肺、気管支)、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた (EHC 103 (1990)) との記述から、標的臓器は血液系、呼吸器、肝臓、脾臓であると判断し、血液は区分 1、呼吸器、肝臓、脾臓は区分 2 とした。なお、吸入又は経口経路による動物試験において、区分 2 のガイダンス値を上回る用量で、麻酔作用、血液系への影響がみられている (SIDS (2002)、PATTY (6th, 2012) )。
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため分類できない。本物質を投与した試験報告は次に示したラット飲水投与 (0.1%) の試験報告のみであり、用量反応関係、動物種間差等の情報が欠落しており、データ不足で分類できない。ラットに 0.1%の本物質 (250 mg/kg/day 相当) を 93 週間にわたって飲水投与した試験において、毒性影響はみられていない (SIDS (2007))。このほか、本物質単独ではないが、アルキルジメチルアミンオキシド (AO、アルキル鎖長 C12～C16、ドデシル (C12) が主成分) を 27%含む水溶液製品 (ただし、AO に含まれる DDNO の割合は不明) をラットに 104 週間混餌投与した試験では、0.2%投与群 (AO として 100 mg/kg/day) の雌雄に体重増加抑制がみられている。また、同じアルキルジメチルアミンオキシド (AO、アルキル鎖長 C12～C16、ドデシル (C12) が主成分) を 27%含む水溶液製品をマウスに 104 週間経皮投与した試験では、皮膚の肥厚がみられたが全身毒性はみられていない (NITE 初期リスク評価書 (2007)、環境省リスク評価第 5 卷：暫定的有害性評価シート (2006))。ウサギに 0.3%の本物質を含む製品、2 mL/kg/day で 5 日/週、4 週間適用した試験では適用部位の局部影響のみで全身毒性はみられていない (NITE 初期リスク評価書 (2007)、SIDS (2007))。
NOAEL (経口、ラット、90 日)	40 mg/kg BW 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 422 (反復投与毒性試験と生殖/発生毒性スクリーニング試験の組み合わせ)、ガイドライン：その他：OPPTS870.3650
エチルヘキシル硫酸ナトリウム (126-92-1)	
NOAEL (経口、ラット、90 日)	488 mg/kg BW 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 408 (げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性)
ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
LOAEL (経口、ラット、90 日)	25 mg/kg BW 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 408 (げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性試験)
NOAEL (経口、ラット、90 日)	> 225 mg/kg BW/日 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 408 (げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性)
誤えん有害性	： 分類できない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

2- (2-ブトキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。なお、HSDB (Access on June 2015) に収載された数値データより、動粘性率計算値は 0.069 mm <sup>2</sup> /sec (20°C) (粘性率: 0.0649 mPa · s; 密度 (比重) : 0.9536) と算出される。
動粘性率	6.794 mm <sup>2</sup> /s
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。旧分類のデータが確認できることと、分類ガイダンスの変更により分類を見直した。
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

生態系 - 全般	: 水生生物に有害。
水生環境有害性 短期 (急性)	: 水生生物に有害
水生環境有害性 長期 (慢性)	: 長期継続的影響によって水生生物に有害

アルコール、C9-11、エトキシリ化 (68439-46-3)	
LC50 - 魚 [1]	5 – 7 mg/l 試験生物 (種) : Oncorhynchus mykiss (旧名 : Salmo gairdneri)
EC50 - 甲殻類 [1]	2.5 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna
EC50 96h - 藻類 [1]	1.4 mg/l 試験生物 (種) : Pseudokirchneriella subcapitata (以前の名前 : Raphidocelis subcapitata、Selenastrum capricornutum)

コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
水生環境有害性 短期 (急性)	藻類 (Scenedesmus subspicatus) の 72 時間 ErC50 = ca. 1.3 mg/L (SIDS, 2012) から、区分 2 とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	急速分解性があり (BOD による分解度 : 86-93% (SIDS, 2012) ) 、藻類 (Scenedesmus subspicatus) の 72 時間 NOEC = ca. 0.09 mg/L (SIDS, 2012) であることから、区分 2 とした。
LC50 - 魚 [1]	2 mg/l 試験生物 (種) : Danio rerio (旧名 : Brachydanio rerio)
ErC50 藻類	1.3 mg/l
NOEC 藻類 慢性	0.09 mg/l

2- (2-ブトキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
水生環境有害性 短期 (急性)	藻類 (セネデスマス) 96 時間 EC50 > 100 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) 48 時間 EC50 > 100 mg/L、魚類 (ブルーギル) 96 時間 LC50 = 1300 mg/L (いずれも EU-RAR, 1999) であることから、区分外とした。

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

2- (2-ブトキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
水生環境有害性 長期 (慢性)	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。難水溶性ではなく (水溶解度 = 1000000 mg/L、PHYSPROP Database 2009) 、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	1300 mg/l 試験生物 (種) : Lepomismacrochirus
EC50 - 甲殻類 [1]	> 100 mg/l 試験生物 (種) : Lepomismacrochirus
EC50 96h - 藻類 [1]	> 100 mg/l 試験生物 (種) : Desmodesmus subspicatus (旧称 : Scenedesmus subspicatus)
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.56
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
水生環境有害性 短期 (急性)	藻類 (クロレラ) の 96 時間 EC50 = 1000 mg/L (SIDS, 2005) 、甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 EC50 = 5463 mg/L (ECETOC TR 91 2003) 、魚類 (ニジマス) の 96 時間 LC50 = 11200 ppm (SIDS, 2005) より、藻類、甲殻類及び魚類において 100 mg/L で急性毒性が報告されていないことから、区分外とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BOD による分解度 : 89% (既存点検, 1993) ) 、甲殻類 (ニセネコゼミジンコ属の一種) の 10 日間 NOEC = 9.6 mg/L (SIDS, 2005) であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、藻類、魚類ともに急性毒性が区分外相当であり、難水溶性ではない (miscible, ICSC, 2000) ことから、区分外となる。以上の結果から、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	14.2 g/l 試験生物 (種) : Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	5463 mg/l
ErC50 藻類	1000 mg/l
NOEC (慢性)	9.6 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna 期間 : 「9 日」
NOEC 甲殻類 慢性	9.6 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.32 出典 : ICSC
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
水生環境有害性 短期 (急性)	藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) 72 時間 ErC50 > 1000 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) 48 時間 EC50 > 1000 mg/L、魚類 (メダカ) 96 時間 LC50 > 100 mg/L (いずれも環境庁生態影響試験, 1997) であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BOD による分解度 : 86% (既存点検, 1993) ) 、甲殻類 (オオミジンコ) の 21 日間 NOEC > 100 mg/L (環境庁生態影響試験 (1997) 、環境省リスク評価 (2008) ) であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急性毒性が区分外であり、難水溶性ではない (In water, infinitely soluble at 25 °C, HSDB, 2013) ことから区分外となる。以上の結果から、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	10000 mg/l 試験生物 (種) : Pimephales promelas

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
LC50 - 魚 [2]	9640 mg/l 試験生物（種）: Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	3025 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典: ICSC
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
水生環境有害性 短期（急性）	藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) の 72 時間 EC50 = 0.1 mg/L (環境省リスク評価第3巻, 2004) であることから、区分1とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	急速分解性がなく (4週間での BOD: 54, 52, 82%、TOC: 68, 54, 81%、LC-MS: 100, 100, 100% (通産省公報, 1995))、藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) の 72 時間 NOEC(r) = 0.004 mg/L (環境省リスク評価第3巻, 2004) であることから、区分1とした。
LC50 - 魚 [1]	134 mg/l 試験生物（種）: Danio rerio (旧称: Brachydanio rerio)
LC50 - 魚 [2]	31.8 mg/l 試験生物（種）: Danio rerio (旧称: Brachydanio rerio)
EC50 - 甲殻類 [1]	3.9 mg/l 試験生物（種）: Daphnia magna
EC50 - 甲殻類 [2]	3.1 mg/l 試験生物（種）: Daphnia magna
ErC50 藻類	0.1 mg/l
NOEC (慢性)	0.7 mg/l 試験生物（種）: Daphnia magna 期間: 「21日」
NOEC 魚 慢性	0.42 mg/l 試験生物（種）: Pimephales promelas 期間: 「302d」
NOEC 藻類 慢性	0.004 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.67
エチルヘキシリ硫酸ナトリウム (126-92-1)	
EC50 72h - 藻類 [1]	> 511 mg/l 試験生物（種）: Desmodesmus subspicatus (旧名: Scenedesmus subspicatus)
EC50 72h - 藻類 [2]	511 mg/l 試験生物（種）: Desmodesmus subspicatus (旧名: Scenedesmus subspicatus)
EC50 96h - 藻類 [1]	13859.488 mg/l 出典: ECOSAR
LOEC (慢性)	6.86 mg/l 試験生物（種）: オオミジンコ 期間: 21日
NOEC (慢性)	1.4 mg/l 試験生物（種）: オオミジンコ 期間: 21日
NOEC 魚 慢性	≥ 1.357 mg/l 試験生物（種）: Pimephales promelas 期間: 42日
ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
LC50 - 魚 [1]	7.1 mg/l 試験生物（種）: Danio rerio (旧称: Brachydanio rerio)
EC50 - 甲殻類 [1]	7.2 mg/l 試験生物（種）: Daphnia magna
EC50 - 甲殻類 [2]	7.4 mg/l 試験生物（種）: Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	27 mg/l 試験生物（種）: Desmodesmus subspicatus (旧名: Scenedesmus subspicatus)
EC50 72h - 藻類 [2]	27.7 mg/l 試験生物（種）: Desmodesmus subspicatus (旧名: Scenedesmus subspicatus)

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
NOEC (慢性)	0.27 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna 期間: 「21 日」
NOEC 魚 慢性	0.14 mg/l 試験生物 (種) : Oncorhynchus mykiss (旧名: Salmo gairdneri) 期間: 「28 日」

## 残留性・分解性

ALLROUND - All purpose cleaner	
残留性・分解性	急速分解性でない
ラウレス-6 カルボン酸ナトリウム (33939-64-9)	
残留性・分解性	急速分解性でない
アルコール、C9-11、エトキシリ化 (68439-46-3)	
残留性・分解性	急速分解性でない
コカミドプロピルベタイン (61789-40-0)	
残留性・分解性	急速分解性
2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
残留性・分解性	急速分解性でない
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
残留性・分解性	急速分解性
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
残留性・分解性	急速分解性
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
残留性・分解性	急速分解性でない
エチルヘキシル硫酸ナトリウム (126-92-1)	
残留性・分解性	急速分解性でない
ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
残留性・分解性	急速分解性でない

## 生体蓄積性

ALLROUND - All purpose cleaner	
生体蓄積性	データなし
2- (2-ブキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.56
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.32 出典: ICSC

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典 : ICSC
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.67

## 土壤中の移動性

ALLROUND - All purpose cleaner	
土壤中の移動性	データなし
2- (2-ブトキシエトキシ) エタノール; ジエチレングリコールモノブチルエーテル (112-34-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.56
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.32 出典 : ICSC
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典 : ICSC
ラウラミンオキシド (1643-20-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.67

## オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

## 13. 廃棄上の注意

- 推奨製品/梱包処分 : 内容物／容器を地方、地域、国内の法令や国際的法令に順守した危険廃棄物又は特別廃棄物の収集場所廃棄すること。  
環境への放出を避けること。
- 廃棄方法 : 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物／容器を廃棄する。
- 残余廃棄物 : 環境への放出を避けること。

## 14. 輸送上の注意

UN RTDG に準ずる

### 国際規制

#### 国連勧告(UN RTDG)

- 国連番号(UN RTDG) : 非該当  
正式品名 (UN RTDG) : 非該当  
容器等級(UN RTDG) : 非該当  
輸送危険物分類 (UN RTDG) : 非該当

#### MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

# 安全データシート

ALLROUND - All purpose cleaner

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

## 国内規制

その他の情報 : 補足情報なし

## 15. 適用法令

### 国内法令

化審法	: 優先評価化学物質（法第2条第5項）
労働安全衛生法	: 作業環境評価基準（法第65条の2第1項） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9） 危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9） エタノール（政令番号：61）（5%未満） 【改正後 令和7年4月1日以降】 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号、第3号別表第9） （3-アミノプロパン-1-イル）（カルボキシメチル）ジメチルアンモニウムのN-ココアシル誘導体内部塩（5%未満） 腐食性液体（労働安全衛生規則第326条） 特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者（法第66条第2項、施行令第22条第1項） : 有機化学物質（法第29条1、施行令第4条1） : 有害物質（法第2条、施行令第2条、排水基準を定める省令第1条） : 挥発性有機化合物（法第2条第4項）（環境省から都道府県への通達） : 油性混合物（施行規則第2条の2） 有害でない物質（施行令別表第1の2） 有害液体物質（X類物質）・油性混合物（施行令別表第1第1号イ（81）） 有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1） 有害液体物質（Z類物質）（施行令別表第1） 有害液体物質（X類同等の物質）（環境省告示第148号第1号） 有害液体物質（Y類同等の物質）（環境省告示第148号第2号） : 輸出貿易管理令別表第1の16の項 : 有害物質（法第4条第2項）、水質基準（平15省令101号） : 疾病化学物質（法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号1）
化学兵器禁止法	
水質汚濁防止法	
大気汚染防止法	
海洋汚染防止法	
外国為替及び外国貿易法	
水道法	
労働基準法	

## 16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。